

## 平成 25 年 2 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、1 月より減少している。繊維工業では、商談・受注の増加気配。一般機器では好転の気配はあるが、まだ確かな手応えは無い。旅館業では、大型ホテルがリニューアル中であるにもかかわらず、宿泊が前年同率。運輸業では、円安で油価格が上がり苦慮しているとの報告である。景気回復感は継続しているが、円安は輸入価格上昇等のコスト高も招いており、未だ先行き不透明である。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 2 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、**好転：5.0%** **悪化：36.3%** **DI 値：▲31.3%** ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、**増加：16.3%** **減少：36.3%** **DI 値：▲20.0%** ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、**好転：7.5%** **悪化：40.0%** **DI 値：▲32.5%** ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 25 年 2 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲33.3	▲0.0	▲33.3	▲100.0	▲50.0	▲0.0	▲100.0	▲31.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
▲40.0	▲33.3	▲50.0	▲23.1	▲10.0	▲57.1	▲31.2
						

全体
▲31.3


## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	バレンタインデーにおいては、デパートが優位であり、零細組合員の売上は減少している。	パン・菓子製造業
	2月店舗売上合計は対前年同月比+17%と大幅増加。集客数も+13%と増加。例年と比較すると荒天・降雪の日が少なく、客足が伸びた模様。またNHKやテレビ東京など全国区のTV番組・新聞や有名雑誌で数多く特集紹介されたことも大きなプラス要因である。首都圏出荷額も、2月は対前年同月の2倍と大幅増加。これからも国等の補助事業等も積極的に活用し、PRに努めたい。	水産食料品製造業 萩市
	急激な円安により食品原材料の値上げが予測され先行きが不安である。折しも原料不足による価格上昇とあわせり、非常を乗り越えたコスト上昇となり、先が読めない。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	引き続き消費が低迷しており、販売先が慎重姿勢を続けている状況。当組合では、一般的に回復傾向と言われている景況判断にはまだほど遠く、受注状況は引き続き低調。2月はシーズンの狭間で特に動きが悪い。各社まだまだ赤字から抜け出せない。	下着類製造業
	商談・受注が増加する気配が感じられる。	外衣・シャツ製造業 山口市
	ゴールデンウィーク頃前までは、なんとか予定受注量を確保できそうである。国内回帰の傾向が見えつつある。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	木材価格、新設住宅着工戸数ともに変動なし。	製材業・木製品製造業 山口市
	スギ丸太に若干値上がりが見られるが、製品価格の変化はあまり見られない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	需要減少、多品種、小ロット、短納期とニーズが変化しているが、これに対応できる効率的な設備となっていないため、生産性が低下している。	印刷 下関市
	いよいよ年度末を向かえ、本来なら残業が続くところだが、未だにその兆候は見えてこない。週末などに仕事集中し、土日出勤している部署も見受けられるが、仕事の単価が低く、残業手当分の赤字が出る物件も少なくない。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材110%、路盤材104%、再生材86%、全体では105%。	砕石製造業

	出荷量は、前月比83%と減少するも前年同月比は114%増。6協組中4協組が前年同月比で増となった。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていないが、セメントメーカーが相次いで新年度以降の値上げを発表しており、今後、原材料費が高騰する懸念がある。	生コンクリート製造業
	今までに無かったマーケット展開に、大口案件の問い合わせ等あり。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	組合員が3月に新たにレーザー切断装置を追加導入稼働の予定で工事中。	一般機械器具製造業 周南市
	好転の気配があるが、良くなるという心理的な働きが先行している。大企業には活力上昇機運があるが、中小企業にはまだ確かな手ごたえがない。	一般機械器具製造業 防府市
	引き続き、業況先行き不透明。早く景気が回復して欲しい。	一般機械器具製造業 宇部市
	売上高は微増。	
	金型製造関係の生産状況は、2月の操業度は1月同様に伸びている。2月の金型受注は中国向けのリピート金型及びそれに関連する品種換えの部品等の受注が継続している。医療業界が相変わらず活気があるが、テルモ山口が来年稼働体制に入るので、金型関係の発注を期待している。2月の受注も引き続き活発で、4月の生産枠は何とか確保出来ている。射出成形機業界は大変厳しい状況で、成形機、金型のセット受注が過去は多かったが、昨年より金型単体の受注のウエイトが大きくなってきている。成形製品関係の動向は、先月と同様の状況。昨年夏以降、自動車関係の受注が減少したまま推移しており、海外生産、部品現地調達の影響が大きい。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	輸送関係部門は、新規展望見当たらず、厳しい経営が当分続く見込み。その中で精密加工部門では、昨年秋以降の停滞から脱する受注があり、一時的であるかもしれないが、明るさが戻ってきた。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	個人消費もまだまだ低迷しており、各業種とも売上・利益とも低調で厳しい状況で推移している。建設関係・流通関係、自動車関連の売上はやや増加傾向にあるが、ガソリン値上げ等にて収益環境は厳しい。その中、当地区はやや回復状況にある。	各種商品卸売業 周南市
	是と言って良い兆しも無い中で、雇用人数を減らす等の方法を取りながら、対処している。	各種商品卸売業 防府市
	毎週、燃料価格が上昇し、配送経費の増加が懸念される。	各種商品卸売業 山口市

	大型量販店が調達する商品についても地元より県外からの納入が多く、各業種とも、対応に苦慮している。	各種商品卸売業 下関市
小売業	2月は、例年大変苦勞する月だが、特に今年は、寒い日が多く、人出が悪いようす。業界では、2月20日、21日と東京で会議があり、組合専用商品の拡販について話し合った。	化粧品小売業
	貴金属は依然として、高値で動いており、買取量が前月より増加。	中古品小売業
	近鉄松下百貨店が2月28日で閉店。徳山駅前商店街に大型店がなくなった。	各種商品小売業 周南市
	寒波の影響と思われるが、商店街等への人出が減少。	各種商品小売業 山口市
	先月同様に売上低迷が続き、厳しい状況下である。	各種商品小売業 長門市
商店街	年明けに衣料品店が2店オープンしたが、飲食店が1店クローズ。年末年始に「食のイベント」が多かったが、物販のための客寄せなのか、B級グルメの名物化か、スローフード・ソウルフード等の開発・発見なのか、今一つ目的が明確でなかった。従来よりの空き店舗対策として、「とりあえず何でも良いのでシャッターを開ける。」という発想の延長線上としかみえず、バブル崩壊後30年余り進歩がないように思う。	山口市
サービス業	2月は日数も少なく、寒く、一年で一番売上が落ち込む月。3月になると又華やいでくる。	美容業
	業況については変化はない。社会が大きく変化してきているので、業界も変わる努力をしていきたい。	理容業
	ハイブリッド車に代表される高度な電子制御装置を搭載した自動車が急速に普及していることから、整備事業場には故障診断機の保有と、対応できる人員の確保が不可欠になっている。当組合では昨年12月に故障診断機の保有状況を調査したが、整備専業工場の約3割でまだ未保有であった。新年度では最重要課題として、診断機保有推進と診断技術向上のための人材育成に取り組む予定である。	自動車整備業
	新車の販売は気にしていたほど悪化はしていないが、業界の景況は悪い。	
	先月と状況変わらず、収益は悪いところで固定化してきている。コンサルタント的に動き、お客様への提案を中心としたビジネスモデルへの変革が必要で	情報サービス業 宇部市

	ある。価格の低価格化が進んでおり、「なにか特化したものを多数の企業に利用してもらおう」といったビジネスモデルの構築が必要である。新しい試みと対応をどんどんしていきたい。	
	来年度にオープンする沖縄のホテルの話し等が舞い込んできている。沖縄は景況が良い様子。山口県内の話が少ないので回復はいつになるのだろうかという感じである。	情報サービス業 萩市
	年度末が近づき、需要増加を願っている。	屋外広告業
	大型ホテルがリニューアルのため、休館中であるにもかかわらず、宿泊客数は、対前年同月比で、99%をキープしている。まあまあの数値と考えられる。	旅館業 萩市
	昨年この時期は「良くない。悪すぎる。」といった声であったが、「昨年と比べ、売上は好調。観光客が動き出し、お土産等を買う客が増えてきた。価格の高いプランが売れ出した。」等の声が上がっている。春になったからか、最近の明るいニュースからなのか、良い雰囲気が漂っている。引き続き、明るいニュースに期待をしたい。	旅館業 下関市
	<p>景気回復を基調にした安倍政権の経済施策（いわゆるアベノミクス）は期待感から大幅な円安・株高に推移、順調にデフレ脱却に向けたムードを醸し出している。とはいっても2極化の進行した中、飲食業界は全体的に低調のまま推移し、不変のままやや悪化含みである。急速な円安はガソリンの値上げに現れ、3月、4月に予想される食材の値上げは経営上の不安材料となっている。ムードだけが先行しており、輸出業には良い状況であるが、飲食業には商品に転嫁できるかが問題となる。デフレ脱却には時間的な遅速がついてまわる。</p> <p>県予算も減少、業界への支援は皆無の中で、「産業力・観光力の増強」の県民力による景気回復を期待している状況。また、労働賃金（春闘）への期待感が大きい。</p>	飲食業
建設業	見積件数は増加してきたが、すぐの仕事ではなく、稼働率が落ちてきている。都心ではかなりの仕事量があるようだが、地方ではそれほどでもなく、原材料の値上げを心配している。	鉄骨工事業
	中電への工事申請1月306件（当支部分253件）、前年同月248件（同207件）。太陽光発電への申請40件、オール電化申請32件（前年は太陽光23件、オール電化35件）。LED街路灯への切替・新設申請は23件（前年は77件）。再生エネ	電気工事業

	<p>ルギー買取の優遇の見直しにより、依然として太陽光発電の申請は続いている。24年度末竣工工事等で多忙な状況である。</p>	
	<p>賃金・労働条件等の為に、若年者が思うほど、定着していない企業が多い。</p>	左官工事業
	<p>来年度に向けて公共工事への期待感が高まっているが、依然として低入札が続いており、事業運営は厳しい。1件当たりの工事価格の低迷は、人件費が低いまま推移している為で、現実には賃金が少しづつ上昇している。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>公共工事は地域によっては、かなりの発注があるようだが、我が熊毛地域には、あまり発注が無い。今月の報告の売上高は前年同月比で増加としているが、昨年2月は0円であった。</p>	土木工事業 周南市
	<p>25年2月の受注高は、対前年同月比22%。今年度の累計は、対前年同月比75%。</p>	土木工事業 柳井市
運輸業	<p>輸送関係は、前年同月比で約30%の減少。円安により株価の上昇等は大企業にとっては大きなメリットがあると思われるが、中小輸送業者にとっては、軽油の値上がりが経営に大きな負担となってきている。輸送量減少、輸出・内需とも下降した2月であった。油関係は2.7円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>2月の輸送稼働は平年並みに落ち着いた。しかしながら、燃料価格は1月からの上昇基調に歯止めがかからず、2月は7円強/Lの値上げを受け、1、2月を合わせると10%強の値上がりとなった。円安デメリットの甘受のみが先行している。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>2月に入って毎週軽油の値上げが続いており、非常に厳しい状況が続いている。荷動きについては大きな増減はないが、これから年度末に向けて荷物が大きく動く見通しである。特に例年3月は繁忙期であり、荷動きが活発になることが予想される。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>2月は“逃げる”で早く過ぎる。1月中旬よりの円安の進行は燃料の値上がりを招き、軽油10:130円、レギュラーガソリン10:155円となった。冬の寒さに灯油1094円~100円と高値である。にも関わらず、景気の回復の動きは鈍く、運賃は上がらない状況である。国民生活物資の輸送という大いなる責任と義務と責任を、安全運行で果たしている中小運送業界を認めていただきたい。</p>	一般貨物自動車運送業 下関市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年同月比で▲13.2%（平成25年1月1日～2月20日分）となり、平成24年6月以降の大幅な減少に歯止めがかからない。この内、平成25年1月1日～31日分は▲11.6%の減少、平成25年2月1日～20日分▲15.5%と大幅な減少がますます酷くなっている。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではない様子だが、コンビニナートの大企業、夜間の飲食店関係が激減しており、タクシー事業者も歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況におかれている。</p> <p>燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。CPの上昇傾向にあることに加え、円安になったため、2月のタクシー会社の購入単価は前年比+11%となり、タクシー会社の負担がますます増加。</p> <p>円安と株価上昇で一部の輸出産業は景気回復の予想があるようだが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。</p>	一般旅客自動車運送業
	<p>組合員の扱う港湾荷役については、季節的要因を除いて、同様か、又は、微弱ながら減少傾向が続いているようすである。世界における、日本の港の需要（利用するかどうか）は、中国・韓国の国策により大規模・先進的に整備された港湾にシフトされて減少している。この様な傾向の中で、地方港が活気づくには内需の増加、しかも、地方経済の景気が良くなり、しかも、港湾（船舶・海上貨物）を利用する物流が増加しなければ好転は難しいと思われる。</p>	港湾運送業